

かいぞういん 無量山小松寺海蔵院

この地域の名刹である海蔵院は、文治2年(1186年)、平重盛による開基、珊光国師による開山と伝わっています。

平重盛は、宋の靈隠寺へ黄金を送り、息子二人を派遣するなどして平家の安泰を祈願させました。やがて、珊光国師らとともに帰国する際、船が大しけに遭い、野田村の「^{だいとう}「大唐の倉」^{くら}」へ漂着したと言われています。

このときすでに平家は滅亡しており、都への上洛を断念した珊光国師らは、野田の地に寺院を建立し、無量山小松寺海蔵院と称しました。「小松寺」は平重盛の「小松内大臣」から、「海蔵院」は漂着した「大唐の倉」にちなむものと言われています。

やがて、江戸時代の寛永年間に火災に遭い、野田領主薩摩守源則武、本室寿宗和尚により再度開基・開山されました。この時に臨済宗から曹洞宗へ改宗したと伝わります。

海蔵院は明治31年にも火災に遭い、寺宝や文書類の多くが燃えてしまいましたが、野田領主の菩提寺として、また、地域の中心的な寺院として現在も多くの信仰を集めています。

